

I. 舞台上でAがなにやら作業をしている。

Bが舞台に上る。

B 熱心に見ていますね。

A あつ、先生！

B 全体会議以来ですね。

A ずいぶんと経ちましたね……

B どうですか、この星は。

A うーん、前に比べるとやはり……

B 大先生のいなくなつてしまつた影響が出ていますか。

A そうなのかもしれません。まあ、僕は大先生に感謝してますけどね。

B という……

A あれから僕はこの星を見てきて、色んなことに気づけました。新たな視点が持てるようになった気がするんです。

B それはよかつたですね。

A …さつきから何を見てるんですか？

B ああ、私なりにいろいろ考えて、大先生にあつて私に足りないものは知識だと思つて、最近はとにかく読むようにしてゐるんです。

A てことは先生も出馬するんですか。

B はい。こんなチャンス、またと無いですから。

A チャンスか。

B キミは出ないんですか？

A 僕ですか？ いえいえ、僕なんてまだまだそんな器じゃないですから。

B そつですか。

A はい。あと少しなので、終わらせちゃいますね。

B 切りの良いところで切り上げてくださいね。

II. Aが口を開く。

A 先生、やつぱり真面目な話をしてもいいですか？

B ええ。どうぞ。

A 彼らは、もうダメかもしれません。

B という……

A 僕はいままで、この星で動きが活発なトコロばかりを観察してきました。鈍い方に比べて、見ていて面白かつたからです。あ、こんな話をしたら怒られちゃいますかね。

B キミが担当してる時間は、キミが導き方を選べます。会議でも言われていたでしょう。

- A 自由の原則ですね！
B はい。
A それで、彼らを見ていて、最初はすごく面白かったんです。これが大先生の見ていた景色かっている感動もありましたし。その頃は彼らみんなが一つの方向を見ているというか、成長に夢中でした。ご存知ですか？
B ええ。読みました。
A さすがです。僕は、そんな彼らの中でも特に熱を持つ者に、こうして光を当ててきたんです。そうすること、他の者が彼に注目するようになって、熱が伝播して彼を中心とした波になるんです。その波の広がり、本当に見えて興奮しましたよ。次々と新しいモノが発見され、作られ、世界はひと繋がりになりました。でも、楽しんでいられたのは最初だけでした。最近の彼らは波を生み出せなくなってきたんです。
B ええ、実はそれも知っています。いまは停滞しているようですね。話は終わりですか？
A え？ああ、はい。・・・先生ってなんでも知ってるんですね。
B 先生ですからね。

Ⅲ. 話は脱線する。

- A 選挙、いつになったんですしたつけ？
B 2年後です。
A え、本当ですか。
B かなり前倒しになったんですよ。
A もうすぐじゃないですか。すみません、時間がないのにこんなに長話しちゃって。
B いえいえ。いいんです。こうして会話するのは久しぶりで新鮮な気持ちです。
A 担当とか交代とかのシステムさえなかったら前みたいに話せるんですけどね。
B しかし会議で決めてしまいましたから。
A 彼らから逆輸入したんですもんね？
B そうです。選挙もね。彼らから得るものは多い。
A 最近では彼らの世界も複雑になりすぎてしまっていて、こういう制度ではカバーできない部分も増えているみたいですよ。
B それもあと少しの辛抱です。またすべてを司る新たな大先生が誕生すれば、世界は安定と明るい未来を手にするでしょう。
A その大先生が本当の大先生になれるかは分かりませんがね。
B ……なんだか言い方にトゲがありますね。
A 先生は、「お天道様が見ている」っていう表現を知ってますか？
B いえ・・・、どういう意味でしょうか。
A 「お天道様が見ている」っていうのは、この星の小さな島国で彼らが使った言葉、あ、いや、正確には使われていた言葉なんですけど、誰も見ていなくてもお天道様にだけは必ず見られていて、いつか絶対に罰が当たるから、悪いことはしてはいけませんよっていう教えなんです。
B それは・・・

A そうなんです。なんていうかあいまいで、しっかりとした規律ではない。でも、この言葉を初めて聞いた時、僕は、すぐドキッとしました。そのとおりなんですもん。僕は彼らをほんとにずっと見てるんで、これがバレてるのかなって。

B まさか。そんなわけないでしょう。

A でもですよ、大先生が居なくなった頃からか、このフレーズが使われなくなってきたんです。きっと何かに気づいたんでしょうね。彼らは、自分のことをもつと周りに見てほしいって思うようになったんです。努力も才能も幸も不幸も、ひいては悪事すらもを必死に顕示して、周囲の視線を集めることに夢中なんです。

B へえ。

A でもそれは多分、大先生が望んだ方向から離れた方向へと進んでしまっている。きっと大先生は彼ら一人ひとりを導き光らせたかったんだと思うんです。しかし試しにこうやって光を向けてみると、ほら、こうやって目をそらす（居心地悪そうにする…観客の反応により多少変化する）んです。こんなものは求めていない、これは自分に向けられるべきではない。だけど、この自分の姿は誰かに見てほしいとも思う。そんなしがらみの中で、波を起こせなくなってきたんです。それどころか、他者が生み出す波を妬み、邪魔して、あげくの果てには溺れてしまうんです。こうなってくると、我々としては見過ごせないと思いませんか？

B 何が言いたいんですか。用が済んだのならそろそろ…

A 僕らの世界もそっくりですよ。

B は。

IV・AはBと向き合う。

A 先生は、この前の会議をどう思いましたか？

B ぶっっっ…。

A 先生という先生みんな声を張り上げながら自分の立場を主張するだけで、まるで会議と呼べるようなものではなかったですよ。

B すべてを司っていた大先生がいなくなってしまったんです。みんなショックを受けるし混乱もするでしょう。

A 彼らとそっくりじゃないですか？大先生がいないと僕らは道に迷って足を引っ張り合う。しまいいには選挙で次の大先生を決めるだの、みんなを部署に分けて仕事を割り振るだの、彼らの真似事を始めるんですもん。導くどころか彼らに導かれてしまってる。

B ……。

A 先生。先生は何のために知識を得てるんですか？

B ……。

A その知識は、いつ使うんですか？

B ……結果的には、大先生に選ばれた際にそれを使って彼らを導くために。

A ぶっっっ導くんですか？

B ぶっっっ……。

A 経験のない知識だけでどうやって彼らを導くんですか。

B 経験はこれから
 A 今までも時間はたくさんあったのに、理由をつけては現場から目を背けて、せっせと自分磨きをしてきたんですよね。
 B キミ、それは語弊がありますよ
 A じゃあ先生は大先生になったらどのように彼らを導くご予定なんですか？そろそろ教えてくださいよ
 B なんなんですかさつきから。そんな矢継ぎ早に質問されても答えられませんよ。
 A もともと考えてないくせに。
 B ……いま、なんと？
 A 本当の話をしましょうよ、先生。先生は別に大先生になりたいわけじゃないんですよ。周りの皆が目指してるから、自分も絶望してしまっただけから、流されてなんとなく目指してるだけじゃないんですか。
 B 口を慎みなさい。失礼な。
 A 知識を得てるのだって、周りでは誰もやっていないから、これなら自分の立場を守れるからって…
 B いいかげんにしないか！もう作業は終わっているでしょう。さっさと出ていきなさい。
 A ……先生、もう大先生はいないんですよ。
 B そんなことは分かっていますよ。当たり前だ。
 A だったら、そんなにのんびりしてる場合じゃないですよ？このままでは彼らは本当にダメになってしまいます。あと2年、死にものぐるいでやってくださいよ。
 B ……。
 A 先頭に立つてこの現状を変えていく大先生っていうのは、とてつもなく大変だと思っんです。半端な気持ちじゃ務まらないはずですよ。その覚悟はお持ちですか？僕は、彼らのためにいるんです。思い出してください。お願いします。
 B ……どうです、これで満足ですか？（と光をAに当てる）
 A え（反射的に体をそむける）……。それは僕たちには…
 B ええ、効かないはずですね。
 A ……
 B キミも、私たちの一員に違いないってことですよ。
 A ……知っています。でも
 B 別にこれからどうしようと私の勝手です。
 A ダメです。自由の原則はそこにはないはずですよ。
 B もういいかげん交代にしましょう。早く行きなさい。
 A 先生…
 B 行きなさい。
 A ……はい。失礼します。
 A 去る。
 B は立ち尽くす。

完